

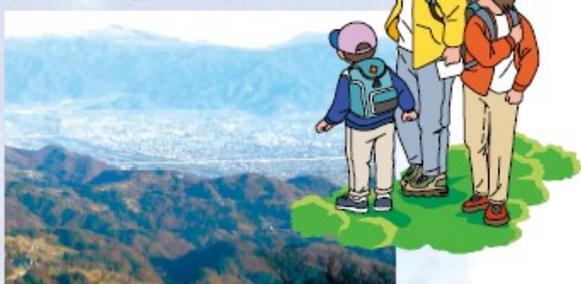


萩野城跡から信州新町方面を望む

長野市北部に位置する陣場平山は、標高1,257mを主峰とし、西に1,143mの地蔵峠、東に1,247mの霞笏神社の峰等からなり、東西およそ2kmの山一帯をいい、そこからの眺めは、四方が見わたせる最高のロケーションです。



萩野城跡から虫倉山・北アルプスを望む



あずまやから川中島平を望む

長野駅から国道19号線安茂里を
通って、犀川沿いに遡ること10キロ。
明治橋を渡るとそこが七二会。

陣場平山一帯から、犀川に至る間に30余の
集落が点在する、自然環境に恵まれたところです。



お問い合わせは…

長野市七二会地区住民自治協議会
phone. 026-262-1203

長野市七二会支所
phone. 026-229-2311

長野市立七二会公民館
phone. 026-229-2761

長野市商工観光部観光振興課
phone. 026-224-8316
email: kankou@city.nagano.lg.jp

(公財)ながの観光コンベンションビューロー
phone. 026-223-6050
http://www.nagano-cvb.or.jp



長野市



この印刷物は、大豆油インクおよび、古紙配合率100%再生紙を使用しています。



なにあい

じんばだいら

七二会 陣場平 トレッキングコース

自然を肌で感じる
ワイドビューなコース



陣場平 スカイコース

「あずまや」からの眺めを楽しむ
総延長6.2kmの散策コース
所要時間約3時間

萩野城 コース

北信五岳を見渡す本郷と川中島平を
一望できる東野がある初心者におすすめコース
所要時間 約1時間30分

地蔵岩 ルート

矢口と地蔵峠の間の三十三番観世音が
見守る観世音ルート
所要時間 約2時間



北信五岳、志賀の山々、さらには菅平、浅間、聖の山を挟んで
普光寺平が展望できるコース

陣場平スカイコース (総延長: 6.2km・所要時間: 約3時間)
地蔵峠 - 800m - 陣場平山三角点 - 140m - 陣場平山の家 - 400m - 霞暮神社 - 600m
朝日城跡 - 800m - 坪梨峠駐車場 - 250m - (林道陣場平線) - 3200m - 地蔵峠

※ 犬戻り坂は急坂ですので足下に十分注意してください。
※ 標高差がありますので、時間に余裕をもって散策してください。

北アルプスと川中島平
を一望し、この地の歴史
を学習できる散策コース

萩野城コース
(総延長: 2.0km・所要時間: 約1時間30分)
地蔵峠 - 980m - 萩野城跡
980m

矢口と地蔵峠の間の
三十三番観音様が
見守る観世音ルート

地蔵岩ルート
(往復: 3.2km・所要時間: 約2時間)
矢口駐車場 - 1610m - 地蔵岩
1610m



官有地下戻記念碑
明治6年(1873年)地租改正法が交付された際、当時の戸長が反有地であるべき入会地を「官」も同意と断絶し、「官有地」と登記したため、共有入会地は一変して官有地となり、住民の立ち入り禁止された。
長い闘争の結果、明治36年(1903年)9月5日より農務大臣より「官有地下戻」の許可を得た。入会山下戻し運動を永遠に記念し明治39年11月に建立された「記念碑」である。



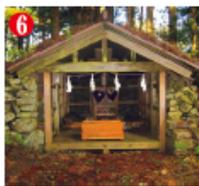
陣場平山三角点
(標高 1257.5m)
地蔵峠の東方へ約800mのところ、1等三角点(国土地理院)がある。
この山の三角点は、他のものと違い三角点の上面が「十」となっており、「十」に「V」が付いており、全国的にも珍しい愛わった標石ともなっている。



陣場平山の家
青少年の健全育成の一環として、昭和44年建設されたものであるが、時代の変化により利用者減少のため平成15年度増築部分である一部を残し、トレンギング、自然探検等、各種団体等の避難所・休憩所として地元管理の下に活用を図っている。



あずまや
陣場平山は、標高1257.5mを主峰とし、西に1143mの地蔵峠、東に1247mの霞暮神社の峰等からなり、東西およそ2キロの馬の背状の山一帯を称し、七二会地区の景観でもある。四季折々には変化に富み、木々の間からは北アルプス連峰、戸棚、飯綱、黒岳、妙高、志賀の山々、更に菅平、浅間、聖の山を眺んで普光寺平が展望できる。



霞暮(よしきり)神社
(標高 1247m)
陣場平山一帯の東峰に位置し、古代から飯綱信仰のひとつとして栄えた社で「霞暮神社」と称し、飯綱神社の前宮と伝えられ、保食神(五穀の神)を祀り、岩石を積み上げた洞の中にご神体が祭られている。毎年5月11日の夏至の日曜日には、坪梨・倉並地区の人々によって例祭が行われている。



義民顕彰碑(白山大明神)
陣場平山一帯は、入会地として多くの人々の草知地や薪炭の採取地として利用されてきた。このため、入会地の権利を返って何回も何回も争いが繰り返されてきた。
この石碑は、入会山を文字通り身をもって守り続けながら、放浪となり、刑場の霧と消えた重村伊兵衛の御霊を祀る石碑で、坪梨、黒沼の村人たちが義民の魂に思いを寄せ、「白山大明神」と命じて石碑を建て、長くその遺徳を語り伝えてきたもの。



朝日城跡
陣場平山の霞暮神社を東に進んだところに少々小高い峰がある。そこに朝日城があったといわれている。
この城は、甲斐の合戦の際、葛山城とつながり、のろしを挙げる見張りの出城であったといわれている。



赤岩のトチの木 (市指定天然記念物)
樹齢約1300年と言われる、樹高40m、目通り12.6m、上方で7本に枝分かれしている。平成2年6月に全国各地から訪客のあった2千数百名の本木・巨木の中から「新日本水木百選」に入選し、認定書を受賞。
樹下にはかつて百有餘坪の平地があり、水神様と五穀豊穡、無病息災を祈って、この大樹の木を神木として祭り、祭事等が行われたという。



萩野城跡 (市指定史跡)
(標高 1176m)
春日氏の居城(最後に逃げ込む城)があったと言われており、この跡は、やぶとともいわれている。
四方急峻にして標高1176mと高く、天然の要害であり、今山頂には日本第一の墓、墓所等を残し、また、東麓(1184m)には、墓所がある。案内でもいわれている岩所の山頂の頂の頂を会い見ない。このように山城の形をそのまま残しているところは稀で、その意味で貴重な遺跡である。



大平洞穴(養蜂貯蔵庫跡)
地下の空洞域の岩石層に地下水が浸透し、地下水は水溜りとなって岩石から岩石へ落下する。このとき高熱作用が起きて気化熱を奪い岩石層内の温度が通常の地温より更に下がる。
この冷たい空気が流動して岩石の隙間から吹き出る現象が風穴である。
風穴は冷涼な温度を利用して蜜蝋や食品の貯蔵などに利用された。



地蔵岩
杉の老木と共に苔むした巨岩がある。両側に六基の三十三番札所通りの観音石仏と共に地蔵さんが祀られていることから地蔵岩の由来となっている。
岩の前にはわずかな平地があり跡を往來する人々の休息の場でもあったようだ。



三十三番観音
観音石仏は、型、十一面、千手、馬頭の4種類で、1ヶ所に三基づつ安置されており、11ヶ所に点在している。それぞれの石仏の背後には、御願が切り刻まれており、台座の番号とともに信濃三十三番の札所のそれと一致しているようである。
三十三番観音石仏は、文久3年(1863年)に、曹録あらたかな観世音菩薩の功徳と安らぎを求めて目下歩いた機会に、この地に寄進されたものと伝えられている。

